

# 育児に対する夫婦の役割分担観と その役割満足度に関する研究

Studies on a View on Share of Role and the Satisfaction of Role with  
Husband and Wife for Child-Care

渡邊タミ子, 樋貝 繁香

WATANABE Tamiko, HIGAI Shigeka

## 要 旨

育児に対する夫婦の役割分担観とその役割満足度との関連性を明らかにすることを目的に、Y県の公立保育園に通う0～4歳児をもつ夫婦230組を対象に調査を行った。その結果、有効回収率は127組(55.2%)であった。育児上の役割分担観について「夫婦主体」観をもつ夫婦は全体の62.2%で、夫婦双方の考えが一致する割合が高い傾向にあった。「夫婦主体」観をもつ夫の方が「妻主体/夫補助」観のものよりも、5項目中3項目の育児場面において夫の育児協力の度合が有意に高く、その妻は役割分担の満足度も5項目全て有意に高かった。また夫婦の対話状況は、育児に対する役割分担観が夫婦間で、一致するか否かとは関連性を認めず、育児に対して夫側が「夫婦主体」観をもつ夫婦は、そうでないものよりも夫婦の対話時間が長い傾向にあった。また、夫との対話満足度が高い妻ほど、育児不安度が低く( $p<.0001$ )、妻の育児役割に対する満足度も高かった( $p<.0001$ )。育児における夫婦の役割分担観と対話のあり方が、育児上の役割満足度に重要な意味をもつことが示唆された。

キーワード 育児, 親, 夫婦, 役割分担観, 役割満足度

Key Words Child-Care, Parents, Husband and Wife, a View on Share of Role, Satisfaction of Role

## 緒言

「男は仕事、女は家庭」という伝統的性別役割分業観は、女性の高学歴化や社会進出への志向に伴って完全に揺らぎ、現代の青年には支持されない古い社会的価値観と受けとめられている。しかし、その役割意識について都市部の大学生を対象にした調査<sup>1)</sup>では、男子学生の方が女子学生よりも伝統的役割意識が高いという報告がなされ、それは払拭し難い価値枠組みとして潜在的に若者の中にも息づいていると言える。こうした伝統的価値意識が育児期にある夫婦間の役割意識や役割期待にどのような影響を与えるかについて検討が進められており、<sup>2)3)</sup>両親の育児観のずれが両者の役割受容に課題を抱え込むことを指摘している。

近年、母親の孤立化、育児不安や児童虐待等が社会問題化して、社会的な関心の高まりとなって父親の育児参

加が求められ、父親も育児には無関心ではいられない実情にある。しかし、必ずしも育児を担う母親の心身の負担感を軽減させるまでには、物理的・時間的な限界もあって父親の育児協力はまだ十分とは言えない状況にある。

そこで本研究の目的は、育児に対する夫婦の役割分担観と対話状況、夫の育児協力等の実態を把握し、それらと育児における夫婦の役割満足度との関連性を明らかにして、今後の育児支援を効果的に行うための基礎資料とする。

## 用語の定義

ここでの「役割分担観」とは、育児に対する夫婦間の役割期待を意味し、夫婦のどちらが主体となって責任を担い、夫婦でどの様に役割分担して育児に取り組んだらよいかという態度と考え方を示している。また、その役割分担を受け入れて遂行し心理的に満たされた状態を「役割満足」として示した。

受理日：平成16年2月4日

山梨大学大学院医学工学総合研究部：University of Yamanashi  
(Pediatric Nursing)

## 方法

### 1. 調査対象

Y県の公立保育園(4ヶ所)に通う0~4歳迄の乳幼児をもつ両親で、調査趣旨を説明し同意の得られた230組。この調査地区は、県内でも田園の自然環境に恵まれ、人口は約16,694名で、伝統や文化、歴史がやや浅く新興住宅地として栄えてきた特色をもつ地域である。

### 2. 調査方法

自記式質問紙法で、園長に調査の目的と内容を説明し了承を得た後で、保育士を通して両親への配布を依頼した。調査表への回答には、夫婦間で相談せず自分で記入後、個別に厳封することを明記した。そして各保育園に設定した回収箱に投函する様に依頼した。

### 3. 調査内容

両親には、一部を除いて同一内容で実施した。その主な内容は、以下のとおりである。

1)基本属性:年齢, 職業, 子どもの人数, 家族形態, 帰宅時間等, 2)育児に対する夫婦の役割分担観: 夫婦が主体となって育児役割を担うという考え方を「夫婦主体」観, 妻が主体となって育児役割を担い, 夫がそれを補助するという考え方を「妻主体/夫補助」観等を設定した,

3)夫婦の一日の対話状況とその満足度: 「ほとんどない」「30分位」「1時間位」「2時間位」「3時間以上」の5件法。その満足度は、「非常に満足」~「非常に不満足」の5件法。4)夫の育児協力とそれに対する妻の満足度:

入浴の世話, 排泄 おむつ交換, トイレ)の世話, 授乳・食事の世話, 啼泣時の世話, 遊びの相手の5項目で, その回答法は「いつもする」「時々する」「全然しない」の3件法で, またそれに対する妻の満足度を「非常に満足」~「非常に不満足」の5件法である。5)育児に対する夫婦の役割満足度: 「非常に満足」~「非常に不満足」の5件法。

なお, 妻用の調査表にのみ, 夫婦の対話が妻の役割満足のみならず, その背景要因ともなる妻の不安についても併せて把握するために, 牧野<sup>5)</sup>による母親の育児不安尺度(14項目)を用い, 「よくある」~「全くない」の4件法で回答を得た。それから妻の満足度に関する3)4)5)項目には, 夫にも妻の満足度を評定(推定)してもらい同様の回答を得た。

### 4. 解析方法

育児に対する夫婦の役割分担観の一致状況については, McNemar検定法を, さらに, 育児における役割分担観別にみた夫の帰宅時間; 「8時前」・「8時以降」の2項, 及び家族形態; 「核家族」と「拡大家族」の2項と夫の

育児協力(5項目)との関連性については, <sup>2</sup>検定を用いた。そして夫婦の役割分担観別にみた夫婦の対話状況の比較には, <sup>2</sup>検定法を用い, さらに妻の夫との対話満足度と育児の役割満足度は, 「非常に満足」と「満足」を「満足群」に, 「不満足」と「非常に不満足」を「不満足群」に, その中間を「中度群」の3群に分類して, それぞれの関連性には <sup>2</sup>検定を用いた。また, 母親の育児不安尺度の低位14項目を得点化して総合計点を算出し, 得点が高くなるほど母親の不安が高くなることを示した。その75%以上の得点者を「高不安群」, 25%以下の得点者を「低不安群」, その中間者を「中不安群」の3群に分類し, その関連性には <sup>2</sup>検定を用いた。育児に対する役割分担の満足度についての夫婦ペアの対応比較には, ウィルコクソンの順位和検定を用いた。

### 5. 倫理的配慮

本調査への協力は, 任意で自由意志によるものであること, さらに子どもの保育面に不利益が及ばない様に配慮することを説明した。また得られたデータは統計学的に処理し, 個人が特定されないようにプライバシーの保護に努めた。

## 結果

回収は, 230組中146組(63.8%)で, 有効回収率は127組(55.2%)で分析対象とした。

### 1. 対象者の特性

対象特性は, 表1に示すとおりである。まず夫婦の平均年齢は, 夫が34.1(±5.5)歳, 妻が32.1(±4.0)歳であった。子どもの人数は平均2.0人であった。夫婦の職業をみると, 夫は「会社員」が66.9%と最も多く, 妻は「パート」が33.9%, 「専業主婦」が26.0%であった。夫の帰宅時間では, 「8時前」が42.5%で, 家族形態は「核家族」が76.4%であった。

### 2. 育児に対する夫婦の役割分担観

夫婦の役割分担観については, 表2に示したとおりである。まず夫側では, 「夫婦主体群」が91名(74.6%)で, 「妻主体/夫補助群」が31名(25.4%)であった。一方, 妻側では, 「夫婦主体群」が102名(83.6%)で, 「妻主体/夫補助群」が20名(16.4%)であった。役割分担観を夫と妻で対応させて一致度をみると, 一致している夫婦が多い傾向にあった( $p = .071$ )。この内訳をみると, 「夫婦主体」と回答したのは全体の79名(62.2%)で, 「妻主体/夫補助」と回答したには10名(7.9%)で会った。夫婦で役割分担が一致して回答したのは89名(70.1%)で, 一致していなかった夫婦は31名(24.4%)であった。また夫が「妻主体/

表1 対象者の基本属性

		n=127
項目		平均値( SD ) 又は人数( % )
夫の年齢	平均	34.1歳( ±5.5 )
	29歳以下	29( 22.9 )
	30～34歳	43( 33.9 )
	35～39歳	34( 26.8 )
	40歳以上	21( 16.5 )
妻の年齢	平均	32.1歳( ±4.0 )
	29歳以下	35( 27.6 )
	30～34歳	54( 42.5 )
	35～39歳	25( 19.7 )
	40歳以上	7( 5.5 )
子どもの数	平均	2.0( ±0.7 )
	1人	29( 22.8 )
	2人	75( 59.1 )
	3人	19( 15.0 )
	4人	3( 2.4 )
夫婦の職業	NA	1( 0.8 )
	<夫>	
	会社員	85( 66.9 )
	自営業	22( 17.3 )
	公務員	10( 7.9 )
	その他	10( 7.9 )
	<妻>	
	専業主婦	33( 26.0 )
	常勤	32( 25.2 )
	パート	43( 33.9 )
夫の帰宅時間	育児休暇中	5( 3.9 )
	その他	14( 11.0 )
	8時前	54( 42.5 )
	8時以降	28( 22.0 )
	不規則	34( 26.8 )
	その他	7( 5.5 )
	NA	4( 3.9 )
家族構成	核家族	97( 76.4 )
	拡大家族	20( 15.4 )
	NA	10( 7.9 )

注) NA:無回答を示す

夫補助」と回答した31名のうち、妻が「夫婦主体」と回答したのが21名(67.7%)であった。「妻主体/夫補助」と回答した夫に役割分担観の不一致な者が多いことが認められた。

2. 父親の育児協力、及びそれに対する母親の満足度

育児に対する夫の役割分担観別、及び夫婦間で役割分担観が一致するか否かが、どの様に夫の育児協力面に関連するか比較を行った(表3)。まず夫の「夫婦主体群」と「妻主体/夫補助群」との比較では、育児に対する協力場面の5項目中「おむつ交換・トイレの世話」(p<0.000)、「授乳・食事の世話」(p=.005)、「遊びの相手」(p=.017)の3項目に、「夫婦主体群」の夫の方が「妻主体/夫補助群」の夫よりも育児協力の割合が有意に高く、他の2項目においてもその傾向を認めた。また、育児の役割分担観について、夫婦が一致した群と不一致な群との比較(表3)では、5項目中「おむつ交換・トイレの世話」(p=.005)、「遊びの相手」(p=.047)の2項目に役割分担観が夫婦で一致した群の方が不一致な群よりも夫の協力度が有意に高かった。一方、妻の役割分担観別にみた夫の協力状況とは関連性を認めなかった。

次に、夫婦の役割分担観が一致した群における夫の帰宅時間別と家族形態別の比較は表4に示したとおりである。まず夫の帰宅時間が<8時前>と<8時以降>との比較では、「入浴の世話」(p=.001)、「おむつ交換・トイレの世話」(p=.05)の2項目に、<8時前>に帰宅する夫の方がそうでない夫よりも育児への協力度が有意に高かった。そして、家族形態別の比較では、「おむつ交換・トイレの世話」(p=.004)の項目にのみ核家族の方が拡大家族よりも夫の協力度が有意に高かった。なお、育児の役割分担観について、夫婦の不一致群の場合では、夫の帰宅時間別、及び家族形態別にみたそれぞれの比較では、5項目の全てに有意差を認めなかった。

そして育児における夫の協力度に対する妻の満足度をみると、すべての項目において育児の役割分担について夫の「夫婦主体群」の方が、「妻主体/夫補助群」よりも満足度が1%水準で有意に高かった(表4-上段)。また、育児の役割分担観について夫婦間で、一致群と不一致群との比較では、5項目中「遊びの相手」(p=.047)の1項目にのみ、一致群の妻の方が不一致群よりも満足度が有意に高かった(表4-下段)。

表2 育児における夫婦の役割分担観

項目	妻側		計	検定値( <sup>2</sup> ) P値
	夫婦主体群 人数( % )	妻主体/夫補助群 人数( % )		
夫婦主体群	81( 66.4 )	10( 8.2 )	91( 74.6 )	3.226
妻主体/夫補助群	21( 17.2 )	10( 8.2 )	31( 25.4 )	0.076
小計	102( 83.6 )	20( 16.4 )	122( 100.0 )	

注) 育児に対する役割分担観については夫婦双方で主体的に行う考え方を「夫婦主体群」、妻が主体で行う考え方を「妻主体/夫補助」の2項目を設定し、無回答を欠損値として分析対象から除外した。

注) 役割分担観における夫婦間の一致状況については McNemar検定法を用い、危険率5%以下を有意水準とした。

表3 育児に対する夫の協力状況 ~ 育児に対する夫の役割分担観別, 及び夫婦の一致・不一致度別の比較 ~

項目	夫の協力状況( 妻の評定 )	しない	時々	いつも	計	検定( <sup>2</sup> )
		人数( % )	人数( % )	人数( % )	人数( % )	p値
<b>&lt;夫の役割分担観&gt;</b>						
入浴の世話	夫婦主体群	7( 5.4 )	46( 36.8 )	41( 32.3 )	94( 74.0 )	5.482
	妻主体/夫補助群	6( 4.7 )	19( 15.0 )	8( 6.3 )	33( 26.0 )	0.064
おむつ交換・トイレの世話	夫婦主体群	9( 7.4 )	68( 56.2 )	11( 9.1 )	88( 72.2 )	17.003
	妻主体/夫補助群	14( 11.6 )	18( 14.9 )	1( 0.8 )	33( 27.3 )	0.000
授乳・食事の世話	夫婦主体群	11( 9.0 )	65( 53.3 )	14( 11.5 )	90( 73.8 )	10.445
	妻主体/夫補助群	12( 9.8 )	18( 14.8 )	2( 1.6 )	32( 26.2 )	0.005
啼泣時の世話	夫婦主体群	5( 4.5 )	69( 55.6 )	17( 13.7 )	91( 73.4 )	5.806
	妻主体/夫補助群	6( 4.8 )	24( 19.4 )	3( 2.4 )	33( 26.6 )	0.053
遊びの相手	夫婦主体群	2( 1.6 )	54( 43.2 )	36( 28.8 )	92( 73.6 )	8.282
	妻主体/夫補助群	3( 2.4 )	25( 20.0 )	5( 4.0 )	33( 26.4 )	0.017
<b>&lt;夫婦の役割分担観&gt;</b>						
入浴の世話	一致群	6( 5.4 )	39( 34.8 )	36( 32.1 )	81( 72.3 )	5.773
	不一致群	7( 6.3 )	15( 13.4 )	9( 8.0 )	31( 27.7 )	0.056
おむつ交換・トイレの世話	一致群	7( 6.5 )	58( 54.2 )	11( 10.3 )	76( 71.0 )	10.266
	不一致群	10( 9.3 )	20( 18.7 )	1( 0.9 )	31( 29.0 )	0.005
授乳・食事の世話	一致群	9( 8.3 )	57( 52.8 )	12( 11.1 )	78( 72.2 )	5.417
	不一致群	9( 8.3 )	18( 16.7 )	3( 2.8 )	30( 27.8 )	0.075
啼泣時の世話	一致群	4( 3.6 )	62( 56.4 )	13( 11.8 )	79( 71.8 )	4.023
	不一致群	5( 4.5 )	20( 18.2 )	3( 2.8 )	31( 28.2 )	0.139
遊びの相手	一致群	1( 0.9 )	49( 44.1 )	30( 27.0 )	80( 72.1 )	6.045
	不一致群	3( 2.7 )	21( 18.9 )	7( 6.3 )	31( 27.9 )	0.047

注) 夫の役割分担観については 育児を夫婦主体で行うものという考え方を「夫婦主体群」、妻主体で行うものという考え方を「妻主体/夫補助群」の2項目に設定し関連をみた。さらに育児に対して夫婦とも協働して主体的に行うと考えるペアを「一致群」とした( 但し「妻主体/夫補助」で一致したペアはサンプル数が少なかった為分析対象から除外した ) そして役割分担観が相違するペアを「不一致群」として2群に分類して関連をみた。

注) 無回答は欠損値として分析から除外し 2群間の関連には、<sup>2</sup>乗検定を用いた。なお 1セルの期待度数が5未満の場合には 正確有意確率( 両側 )を用いた。

表4 夫の帰宅時間別, 家族形態別にみた育児に対する夫の協力状況 ~ 夫婦の役割分担観の一致群 ~

項目	協力状況( 妻の評定 )	しない	時々	いつも	計	検定( <sup>2</sup> )
		人数( % )	人数( % )	人数( % )	人数( % )	p値
<b>【夫の帰宅時間】</b>						
入浴の世話	8時前	0( 0.0 )	16( 30.8 )	22( 42.3 )	38( 73.1 )	13.405
	8時以降	3( 5.8 )	9( 17.3 )	2( 3.8 )	14( 26.9 )	0.001
おむつ交換・トイレの世話	8時前	0( 0.0 )	27( 56.3 )	7( 14.6 )	34( 70.8 )	5.934
	8時以降	2( 4.2 )	11( 22.9 )	1( 2.1 )	14( 29.2 )	0.050
授乳・食事の世話	8時前	3( 6.0 )	23( 46.0 )	10( 20.0 )	36( 72.0 )	4.932
	8時以降	2( 4.0 )	12( 24.0 )	0( 0.0 )	14( 28.0 )	0.081
啼泣時の世話	8時前	0( 0.0 )	26( 52.0 )	10( 20.0 )	36( 72.0 )	5.908
	8時以降	2( 4.0 )	10( 20.0 )	2( 4.0 )	14( 28.0 )	0.073
遊びの相手	8時前	1( 2.0 )	18( 35.3 )	18( 35.3 )	37( 72.5 )	3.805
	8時以降	0( 0.0 )	11( 21.6 )	3( 5.9 )	14( 27.5 )	0.132
<b>【家族形態】</b>						
入浴の世話	核家族	4( 5.3 )	33( 44.0 )	27( 36.0 )	64( 85.3 )	3.150
	拡大家族	2( 2.7 )	3( 4.0 )	6( 8.0 )	11( 14.7 )	0.196
おむつ交換・トイレの世話	核家族	2( 2.9 )	48( 68.6 )	9( 12.9 )	59( 84.3 )	13.809
	拡大家族	4( 5.7 )	7( 10.0 )	0( 0.0 )	11( 15.7 )	0.004
授乳・食事の世話	核家族	6( 8.3 )	47( 65.3 )	8( 11.1 )	60( 84.7 )	3.080
	拡大家族	3( 4.2 )	6( 8.3 )	2( 2.8 )	11( 15.3 )	0.189
啼泣時の世話	核家族	3( 4.1 )	49( 67.1 )	10( 13.7 )	62( 84.9 )	0.625
	拡大家族	1( 1.4 )	9( 12.3 )	1( 1.4 )	11( 15.1 )	0.881
遊びの相手	核家族	1( 1.4 )	36( 48.6 )	26( 35.1 )	63( 85.1 )	1.025
	拡大家族	0( 0.0 )	8( 10.8 )	3( 4.1 )	11( 14.9 )	0.582

注) 夫の帰宅時間を「8時前」、「8時以降」及び家族形態を「核家族」、「拡大家族」の各2群に分類して関連をみた。

注) 無回答は欠損値として分析から除外し 2群間の関連性には、<sup>2</sup>乗検定を用いた。なお 1セルの期待度数が5未満の場合には 正確有意確率( 両側 )を用いた。

注) 夫婦の役割分担観の「不一致群」については サンプル数が少なく、<sup>2</sup>検定の正確有意確率でも差を認めなかったため 表中にデータを示さなかった。

表5 夫の育児協力に対する妻の満足度 ~育児に対する夫の役割分担観別, 及び夫婦の一致・不一致度別の比較~

夫の協力状況(妻の評定)		不満群	中度群	満足群	計	検定(χ <sup>2</sup> )
		人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	p値
<夫の役割分担観>						
入浴の世話	夫婦主体群	15(11.8)	24(18.9)	55(43.3)	94(74.0)	9.093
	妻主体/夫補助群	13(10.2)	9(7.1)	11(8.7)	33(26.0)	0.011
おむつ交換・トイレの世話	夫婦主体群	15(12.5)	20(16.7)	53(44.2)	88(73.3)	14.416
	妻主体/夫補助群	13(10.8)	12(10.0)	7(5.8)	32(26.7)	0.001
授乳・食事の世話	夫婦主体群	15(12.5)	27(22.5)	47(39.2)	89(74.2)	11.06
	妻主体/夫補助群	13(10.8)	11(9.2)	7(5.8)	31(25.8)	0.004
啼泣時の世話	夫婦主体群	16(12.8)	21(16.8)	55(44.0)	92(73.6)	11.793
	妻主体/夫補助群	15(12.0)	8(6.4)	10(8.0)	33(26.4)	0.003
遊びの相手	夫婦主体群	2(1.6)	54(43.2)	36(28.8)	92(73.6)	8.282
	妻主体/夫補助群	3(2.4)	25(20.0)	5(4.0)	33(26.4)	0.017
<夫婦の役割分担観>						
入浴の世話	一致群	14(12.5)	20(17.9)	47(42.0)	81(72.3)	2.997
	不一致群	10(8.9)	6(5.4)	15(13.4)	31(27.7)	0.237
おむつ交換・トイレの世話	一致群	14(13.3)	17(16.2)	44(41.9)	75(71.4)	5.639
	不一致群	10(9.5)	10(9.5)	10(9.5)	30(28.6)	0.060
授乳・食事の世話	一致群	14(13.2)	23(21.7)	39(36.8)	76(71.7)	3.682
	不一致群	10(9.4)	10(9.4)	10(9.8)	30(28.3)	0.159
啼泣時の世話	一致群	15(13.6)	18(16.4)	46(41.8)	79(71.8)	4.258
	不一致群	11(10.0)	8(7.3)	12(10.9)	31(28.2)	0.130
遊びの相手	一致群	1(0.9)	49(44.1)	30(27.0)	80(72.1)	6.045
	不一致群	3(2.7)	21(18.9)	5(6.3)	31(27.9)	0.047

注) 夫の役割分担観については 育児を夫婦主体で行うものという考え方を「夫婦主体群」妻主体で行うものという考え方を「妻主体/夫補助群」の2項目に設定し関連をみた。

注) 夫婦の役割分担観については 育児に対して夫婦とも一致して夫婦主体で行うと考えるペアを「一致群」役割分担観が相違するペアを「不一致群」の2項目に設定し関連をみた。

注) 無回答は欠損値として分析から除外し、2項目間の関連には、<sup>2</sup>乗検定を用いた。なお 1セルの期待度数が5未満の場合には 正確有意確率(両側)を用いた。

### 3. 夫婦の役割分担観別にみた夫婦の一日の対話状況(妻の評定)

妻の評定による夫婦の一日の対話状況について、育児に対する夫婦の役割分担観別、及びその分担観における夫婦間の一致・不一致の比較は、表5に示したとおりである。

まず夫側の役割分担観別にみた夫婦の一日の対話状況についてみると、「夫婦主体群」の方が「妻主体/夫補助群」よりも対話時間が長い傾向にあった。一方、妻の役割分担観別にみた同様の比較では、有意差を認めなかつ

た。さらに、夫婦ペアの対応比較でも有意差を認めなかつた。また、役割分担観が夫婦で同じ考えをもつ「一致群」とそれが相違した「不一致群」との比較では、夫婦の対話時間に対する妻側の評定による満足度には有意差を認めなかつた。

### 4. 妻の対話満足度と育児不安、及び育児に対する夫婦の役割満足度との関連性

夫との対話時間に対する妻の対話満足度(3群)と妻の育児不安度(3群)との関連性は、図1に示したとおりであ

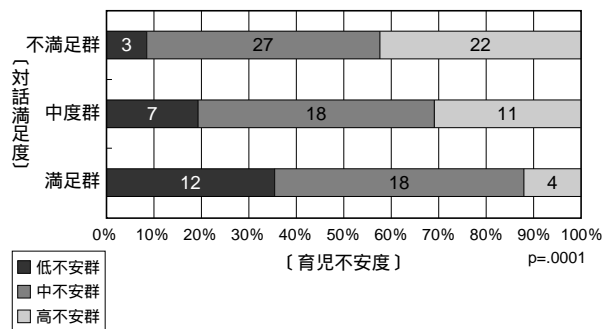


図1 妻の育児不安度と夫との対話満足度との関連性

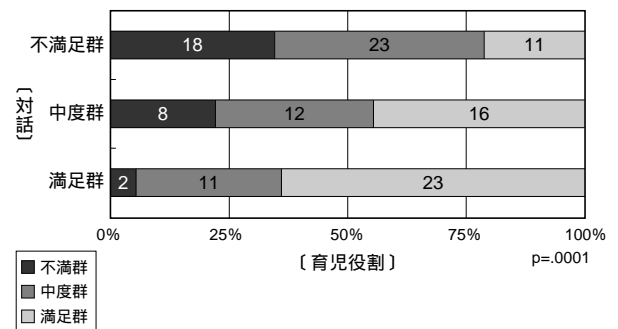


図2 夫との対話満足度と妻の育児役割の満足度との関連性

表6 育児に対する夫婦の役割分担観別にみた対話状況

夫婦の対話時間(妻側の評定)		ほとんどない	30分位	1時間位	2時間以上	計	検定値( <sup>2</sup> )
項目		人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	P値
育児の役割分担観	夫婦主体群	5(3.9)	32(25.2)	26(20.5)	31(24.4)	94(74.0)	7.678
	妻主体/夫補助群	6(0.5)	11(8.7)	11(8.7)	5(3.9)	33(26.0)	0.053
	小計	11(8.7)	43(33.9)	37(29.2)	36(28.3)	127(100.0)	
妻	夫婦主体群	8(6.6)	34(27.9)	33(27.0)	27(22.1)	102(83.6)	1.882
	妻主体/夫補助群	3(2.5)	7(5.7)	4(3.3)	6(4.9)	20(16.4)	0.599
	小計	11(9.0)	41(33.6)	37(29.2)	36(28.3)	124(100.0)	
夫	一致群	4(3.6)	30(26.8)	23(20.5)	24(21.4)	81(72.3)	0.145
	不一致群	5(4.5)	6(5.4)	13(11.6)	7(6.3)	31(27.7)	0.885
	小計	9(8.0)	36(32.1)	36(32.1)	31(27.7)	112(100.0)	

注) 夫婦の対話時間は妻側の評定で分類した。なお各2項の比較には、<sup>2</sup>乗検定を用い危険率5%以下を有意水準とした。

注) 育児に対する夫婦の役割分担観を「夫婦主体群」と「妻主体/夫補助群」との2群に分けて分析した。

注) 育児に対する夫婦の役割分担観が「育児を夫婦協働で主体的に行う考え方のペア」を「一致群」、夫婦の育児に対する役割分担観が相違したペアを「不一致群」とした。なお「妻主体/夫補助」で一致したペアと無回答をサンプル数が少ないため分析から除外した。

表7 育児に対する夫婦の役割分担観別にみた役割の満足度

区分	項目	夫				検定値 ( <sup>2</sup> ) P値	妻				検定値 ( <sup>2</sup> ) P値
		不満群 人数(%)	中度群 人数(%)	満足群 人数(%)	計 人数(%)		不満群 人数(%)	中度群 人数(%)	満足群 人数(%)	計 人数(%)	
夫婦主体群	夫婦主体群	2(1.6)	48(38.4)	42(33.6)	92(73.6)	5.288	15(12.1)	33(26.6)	45(36.3)	93(75.0)	13.118
	妻主体/夫補助群	4(3.2)	16(12.8)	13(10.4)	33(26.4)	0.079	13(10.5)	13(10.5)	5(4.0)	31(25.0)	0.001
	小計	6(4.8)	64(51.2)	55(44.0)	125(100.0)		28(22.6)	46(37.1)	50(40.3)	124(100.0)	
妻	夫婦主体群	6(5.0)	52(43.3)	42(35.0)	100(83.3)	1.264	25(20.7)	39(32.2)	37(30.6)	101(83.5)	1.511
	妻主体/夫補助群	0(0.0)	11(9.2)	9(7.5)	20(16.7)	0.716	3(2.5)	7(5.8)	10(8.3)	20(16.5)	0.493
	小計	6(5.0)	63(52.5)	51(42.5)	120(100.0)		28(23.1)	46(38.0)	47(38.8)	121(100.0)	
夫	一致群	2(1.8)	42(38.2)	35(31.8)	79(71.8)	4.815	14(12.6)	32(28.8)	34(30.6)	80(72.1)	5.811
	不一致群	4(3.6)	16(14.5)	11(10.0)	31(28.2)	0.092	12(10.8)	8(7.2)	11(9.9)	31(27.9)	0.057
	小計	6(5.5)	58(52.7)	46(41.8)	110(100.0)		26(23.4)	40(36.0)	45(40.5)	111(100.0)	

注) 育児の役割分担観における「夫婦主体群」と「妻主体/夫補助」及び「一致群」と「不一致群」の比較には、<sup>2</sup>検定を用いた。なお無回答は欠損値として分析から除外した。

なお危険率5%以下を有意水準とした。1セルの期待度数が5以下の場合には正確有意確率(両側)を用いた。

る。なお本調査における育児不安尺度の信頼性(cronbach's係数)は、 $\alpha = 0.7205$ で、夫との対話満足度が高くなるほど、母親の育児不安度が低くなる割合が有意に高かった( $\chi^2 = 18.370, p = .0001$ )。

そして夫との対話満足度と妻の役割満足度との関連性については、図2に示したとおりである。夫との対話満足度が高くなるほど、妻の育児に対する役割満足度も高くなる割合が有意に高かった( $\chi^2 = 19.073, p = .0001$ )。

夫婦の役割分担観については、夫・妻・夫婦ペアの3つの側面から分析した。まず夫と妻の育児に対する役割の満足度について比較を行った(表6)。まず育児における夫の役割分担観と夫婦の役割満足度との関連性は、妻の役割満足度(3群)にのみ、夫の「夫婦主体群」の方が「妻主体/夫補助群」よりも有意に役割満足度が高かった( $p = .001$ )。その他、妻と夫婦ペアにおける役割分担観別に、夫婦の役割満足度との関連性をみたが、有意差を認めなかった。なお、夫婦ペアで対応させてみた育児の役割満足度では、夫は妻よりも全体的に育児の役割満足度が有意に高かった( $z = 2.887, p < .004$ )。

## 考察

### 1. 育児における夫婦の役割分担観と夫の育児協力

育児における夫婦の役割分担観をみると、本調査では「夫婦主体」観をもつ夫が70%強、妻が80%強で、夫よりも10%割合が高かった。夫婦の役割分担観は、夫婦双方とも一致したペアの割合が多い傾向にあった。これは、保育園児の両親を対象としており、共働き家庭が全体の60%であり、父親も育児に関わらざるを得ない状況が背景にあることが関連していると推察された。また、平成12年度の総理府調査「男女共同参画社会に関する世論調査」<sup>6)</sup>において、「男は仕事、女は家庭」の考え方に同感すると回答した男性は約30%、女性は約20%であり、約10年前の調査結果より20%程減少している。育児の役割分担に対する考え方については、本調査の場合、この世論とほぼ同様の認識レベルにあり、伝統的な性別役割分業観をもっているものが少ないことを示している。また、斎藤ら<sup>8)</sup>による保育園児をもつ家庭生活の実態を540組を対象に調査した結果では、夫婦の育児役割観が共に同じ

という割合が全体の50%で、本調査の結果の方が10%程割合が高かった。

このような育児における役割分担観を背景として夫の育児協力をみると、全体的には上位から「遊びの相手」、「入浴の世話」、「おむつ交換・トイレの世話」の順であった。この育児に対する夫の協力状況は、他の類似調査<sup>7)</sup>とほぼ同じ結果であった。次に、夫の役割分担観別に、その協力状況を比較してみた結果は、「夫婦主体」観をもつ夫の方が「妻主体 / 夫補助」観をもつ夫よりも有意に高い協力度を示し、夫の役割認識のあり方が実際の育児協力面にも大きく関与することが分かった。さらにその夫の協力度に対しても母親の満足度が有意に高いことが明らかにされた。本調査の結果、夫の育児分担観と育児協力は、一部の育児場面を除いて関連性を認めた。役割分担観が一致している夫婦は、妻が夫について、いつも育児協力していると回答した者の割合が多かった。また同様に妻が夫の育児協力に対して、満足していると回答した者が多かった。役割分担観の一致と夫の育児協力に対する評価や妻の満足度に関連していると推察された。夫の育児に対する役割意識が育児の役割分担観になり、妻の満足度につながると考えられた。大西ら<sup>3)</sup>の調査によれば、母親の育児観は伝統的な性別役割分業観を支持しているにも関わらず、育児役割に負担を感じることによって、一人の女性としての自己成長が図れず、役割葛藤を生じやすいと述べている。

本調査では、夫が「妻主体 / 夫補助」観をもつ場合には、帰宅時間や家族形態とは、育児協力面で相違しなかった。このことから育児に対する夫の役割認識が育児への協力面に左右することが再確認された。もっと夫婦双方の育児に対する役割期待や価値認識を共有できる機会をもって、育児上の協力体制をつくり、役割分担の満足度を高めていく必要がある。

## 2. 夫婦の対話状況と育児不安、育児の役割満足度との関連性

本調査では、夫婦の対話時間で最も多かったのが「30分位」が30%、「1時間位」が29%でほぼ同割合であった。0～2歳児の母親を対象にした18年前の同様な調査<sup>8)</sup>では、1時間位が最も多く、次いで2時間位が27%であり、以前よりも夫婦の対話時間が少なくなっている状況にあることが推測された。また夫の役割分担観別にみた夫婦の対話状況は、「夫婦主体」観をもつ群の方が「妻主体 / 夫補助」観をもつ群よりも有意に対話が長く、妻の役割分担観別、及びその分担観に対する夫婦間の一致・不一致と対話時間とは関連性を認めなかった。この事は、夫の育児に対する役割分担観が対話の機会や時間の長さにならず影響していることが示唆された。そして夫との対話満足度が高い妻は、育児不安度も低くなり、育児に

対する役割満足度も高くなることが明らかになった。この事は、夫婦の意識が育児不安に及ぼす影響を調査した石橋ら<sup>9)</sup>の報告でも、本調査と同様の結果を得ている。夫婦間での育児認識の違いは母親の育児不安に影響し、さらに育児の役割分担満足との関連性もあることを明らかにし、夫婦間のコミュニケーションの充実を図ることを提言している。牧野の報告<sup>10)</sup>でも、育児不安は妻が夫から育児責任を一任され、孤立した閉塞状況にあると一層強まるとことを指摘している。このことから、夫婦の対話は、妻の心理的負担感を緩和させる要素をもち、育児に対する役割分担にも満足して取り組める状況を作り出すようになることが示唆された。五十嵐ら<sup>11)</sup>も、妻は「良き理解者」として夫に、その役割期待が最も高いと報告しており、夫の心理的支えが育児協力の中では、最も大きい位置を占めていると言える。

以上のことから、対話をとおして夫婦の意志疎通を図り、双方の役割分担についての認識を共有することは、育児に対する夫婦間で連帯意識を育み、双方の育児の役割満足度を促し、育児不安の軽減に有用な機能を果たしていることが示唆された。

## 3. 育児支援に対する示唆

柏木ら<sup>12)</sup>は、夫婦の育児観が子育ての実態を規定すると強調している。性別役割分業観についての夫婦間の相違というよりは、夫側の育児への役割分担観が育児協力面や夫婦の対話のあり方を規定する要素があることが示唆された。この事を育児支援の中で念頭において関わっていく必要がある。そして夫婦間の深い対話は、育児に関わる妻の不安感を軽減させ、家庭内で分担された役割を満足して担える様な心理状況を醸し出す可能性を秘めていることを認識して育児指導に活かしていくことも大切である。現在は、児童健全育成事業の一環として親になる時に「両親教育」がなされている。しかし、親役割についての教育は、価値意識が柔軟な小学校高学年以降の小児期から学校や家庭で教育することが必要と思われ、提言していきたいと考える。

## 謝辞

最後に、本調査に理解を示しご協力を頂いたお母様、お父様、また調査表の配布にご尽力下さいました保育園の皆様へ深謝を申し上げます。

文献

- 1) 河村由紀子, 村山より子(2002)大学生の性別役割意識調査結婚・育児・家事・仕事に関する意識の男女比較. 日本ウーマンズヘルス学会誌, 第1巻: 45 - 50.
- 2) 佐野和香, 我部山キヨ子, 池田浩子, 他(2002)現在日本における父母の育児観とその影響因子に関する研究1歳6か月児の母親と父親の比較. 母性衛生, 43(2): 387 - 394.
- 3) 大西由希子, 良村貞子(1997)伝統的母性観の影響下における母親の育児観母親の役割期待に関する調査から. 北海道大学医療技術短期大学部紀要, 9: 1 - 12.
- 4) 矢倉紀子, 原口由紀子, 松浦治代, 他(2001)母親の育児観とその関連要因. 米子医学雑誌, 52巻(5~6): 220 - 226.
- 5) 牧野カツ子(1982)乳幼児をもつ母親の生活と「育児不安」. 家庭教育研究所紀要, 3巻: 34 - 55.
- 6) 日本子ども家庭総合研究所編(2001)日本子ども資料年鑑. KTC中央出版, 東京, p66.
- 7) 北村愛子, 佐鹿孝子, 大久保ひろ美(2000)父親の育児参加と母親の育児不安との関連204組の夫婦のアンケート調査より. 山梨県立看護大学短期大学紀要, 5(1): 61 - 76.
- 8) 本村汎, 磯田朋子, 内田昌江(1985)育児不安の社会的考察 - 援助システムの確立に9石橋君子, 大坪智美, 正崎仁恵, 他(2002)夫婦の意識が相互の育児不安に及ぼす影響. 母性衛生, 43(4): 541 - 548.  
向けて. 大阪市立大学生生活科学部紀要, 第33巻: 231 - 243.
- 10) 牧野カツ子(1982)乳幼児をもつ母親の生活と育児不安, 家庭教育研究所紀要, 3: 34-56.
- 11) 五十嵐久人, 飯島純夫(2001)父親の育児参加への意識と育児行動. 山梨医科大学紀要, 第18巻: 89 - 93.
- 12) 柏木恵子, 中野由美子, 牧野カツ子(1996)子どもの発達と父親の役割. ミネルヴァ書房, 京都, p71.
- 13) 斉藤幸子, 高橋種昭, 高野陽, 他(1997)親と子の生活に関する調査(第1報)保育園児家庭の生活実態. 日本総合愛育研究所紀要, 33巻: 259 - 265.
- 14) 吉川伸美, 松本三重子, 西田みつ子, 他(1998)育児支援のための家族のライフスタイル調査. 松仁会医学誌, 37(1): 53 - 59.
- 15) 大畠祐子, 櫻井香織, 妹尾悦子, 他(2002)母親が育児に対して感じる育児ストレスへつながるマイナス要素. 茨城県母性衛生学会誌, 22号: 50 - 53.